

今週の聖句 ローマ14～16章

---

今週の研究：私たちの信仰のある部分は基本的ですが、ある部分は単なる「注釈」にすぎません。今週は、この「注釈」のいくつかについて学びます。

基本的な問題について説明した後で、パウロはいくつかの「注釈」にとりかかります。ある点については強く主張しますが、その一方で、ほかのてんについては、ずっと自由な態度を取っています。なぜなら、それは本質的なものではなく、いわば「注釈」だからです。しかし、議論そのものは問題性が少なくても、クリスチャンがこれらの論題を論じるときの態度は非常に重要です。

---

日曜日：パウロはここで、清い肉と汚れた肉の区別が撤廃されたと言っているわけではありません。そのようなことがここで論じられているわけではありません。(ロマ14：1～3)「何を食べても良い」(ロマ14：2)という言葉は、清いものであれ汚れたものであれ、今はどんな動物を食べてもかまわなくなったという意味に解釈するならば、それは誤りです。新約聖書の他の聖句と比較するならば、そのような解釈はできないはずです。

信仰の弱い人を「受け入れる」ことは、その人を教会員として認めることでした。彼は批判されることなく、自分の意見を述べる権利を与えられました。

---

火曜日：パウロはロマ14：17～20で、キリスト教の様々な側面を正しい視点から眺めています。食事は重要ですが、クリスチャンは偶像に供えられたかもしれない肉の代わりに野菜を食べる人たちの選択をめぐって争うべきではありませんでした。

むしろ、彼らは聖霊による義と平和、喜びに心を向けるべきでした。私たちは今日、この思想を私たちの教会における食事の問題にどのように適用したら良いのでしょうか、健康のメッセージ、特に食事に関する教えがいかに私たちにとって祝福であろうとも、すべての人がこの問題で同じ考えを持っているとは限りません。

---

水曜日：ローマでも、特にユダヤ人のクリスチャンが、もはやユダヤ教の祭りを守る必要がないということに確信が持たなくて困っていたはずで、パウロはここで、この件に関しては、自分の好きなようにすればよい、と言っています。重要なのは、自分と異なった考えの人を裁かないことです。

---

ローマ14章は、わたしはとても好きな聖書の場所です。パウロが持っている、とても幅の広い信仰が述べられています。

人間だれしものが、クリスチャンである前に、それぞれの民族の固有の文化の影響を色濃く受けています。かつて外国の教会での生活をした時に、これは日本ではありえないだろうと思われることがありましたが、それが彼らの文化だと考えれば、受け入れることができました。

ここでパウロは本質的なこと、律法に書かれていることは、厳格に守るけれど、その律法を適用する

様々なことについては、時代背景、文化、家庭環境を配慮しながら柔軟に対応するように教えているのです。

それはあなたの主張を変えろとは言っていません。「わたしはこう考えるけれど、あなたは違う考えなのですね」と、相手を許容する広さと深さを持つべきなのです。

かつて教会の中において、強い主張をされる方が、クリスチャン生活の実際的な部分で、こうすべきだと自らの主張をされることがあり、そうなると、たとえばその方が健康の原則などを実践することを強く奨励したとしても、そのことを行うことよりも、強い意見を述べている人に非難されないように、仕方なくそれを実施するというような、本来の健康のためという目的からはずれてしまっているようなことがなされていたと感ずることがありました。

ガラテヤ6：1に「兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったら、霊に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道へ立ち帰らせなさい。あなたがた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。」と教えられています。

ここで罪を犯している人を見つけたら、まずは聖霊に導かれてとあります。自分が注意することが、神さまの喜ばれていることか吟味して、そして柔和な心でとあります。このような心で注意をするように勧められています。

ところがしばしばわたしたちは、自分よりも弱い誰かに何かを教えようとしている時に、知らず知らずのうちに自分の考えを押し付けていないでしょうか。支配しようとしてはいないでしょうか。パウロはあなた自身が誘惑されないように気をつけろと教えているのは、このことを指しているのかも知れません。

パウロはローマ人への手紙をしめくくりにあたり、何が大切で、そしてお互いにゆずりあえるものなのか見極めて、この使い方をまちがえないように教えているのです。